

令和元年度授業改善推進プラン（調査結果分析シート）

西東京市立谷戸小学校

●全国学力学習状況調査（小学校第6学年・中学校第3学年）

	課題が見られた問題の概要	正答率	調査結果を踏まえた成果	調査結果を踏まえた課題
国語	示された文章の内容を踏まえ、問いに対する答えを条件に合うように記述する。	75.0	領域別に見ても問題形式別に見ても、全ての項目で都平均を上回っている。これは、校内研究を基盤とした指導に効果があったからだと考えられる。一つは、国語科「読むこと」において身に付けさせる能力を明確化し、系統的に指導したこと。もう一つは、自分の考えの形成を促し、それを記述させるための手だてを講じたことである。	文章の内容を読み取って自分の考えをもち、それを条件に合わせて記述する力に、更なる向上の余地があると考えられる。「読むこと」の学習では、内容理解を踏まえて各自が考えを形成できるような工夫や、その記述方法に関する指導を継続していく必要がある。また、記述する文章の中で、既習の漢字を適切に用いるよう促していく。
	示された文章を踏まえ、「調査の結果をもとに考えたこと」として適切な文章を記述する。	30.0		
	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う。	45.0		
算数・数学	示された除法の式の意味を選択する。	43.3	記述式の設問に対する正答率が、いずれも都の平均を上回っている。自分の考えをまとめたり、説明したりすることを重視した指導に効果があったと考えられる。	式の意味理解や考えの解釈に関する設問への解答状況に課題が見られる。日々の学習において、自己の考えを表現させるだけでなく、他者の論理を解釈し練り上げる解決過程を重視することや、図や式などの数学的表現を相互に関連付ける指導が必要だと考える。
	減法の計算の仕方についてまとめたことを基に、除法の計算の仕方についてまとめると、どのようになるのかを書く。	35.0		
	減法の式が、示された形の面積をどのように求めているのかを、数や演算の表す内容に着目して書く。	53.3		

●児童・生徒の学力向上を図るための調査（小学校第5学年・中学校第2学年）

	課題が見られた問題の概要	正答率	調査結果を踏まえた成果	調査結果を踏まえた課題
国語	文の中の主語と述語について着目して読むこと。	38.3	「読むこと」に関する正答率が東京都の平均を上回っている。また、相手や目的に応じて工夫した書き方の正答率が高い。これは自分の考えをもち、対話することによる学習の成果と考えられる。	「言語」に関する正答率が都平均より下回っている。「読むこと」を通して、主語と述語、修飾語と被修飾語の関係を捉えさせるようにする。
	文の中のくわしくする言葉とその言葉がどの言葉を詳しくしているかについて着目して読むこと。	40		
	第3学年までに学習した漢字を、正しく書けるようにすること。	45		
社会	自分たちが通う小学校がある区市町村の位置について分かること。	33.3	地図の見方や土地の使い方を理解していることが、正答率の高さから分かる。土地の特徴を調べ、比較しながら学習した成果と考えられる。	東京都全体から見た本市の位置を理解していなかった。日ごろから地図帳や資料集を用いて学習を進める必要がある。また、資料の図から正しく読み取る力をつける必要がある。
	図から、ごみと資源の流れについて読み取ること。	46.7		
	交通事故発生時の、通信指令センターにおける対処の様子を読み取ること。	46.7		
算数・数学	角の大きさの測り方を考えること。	30	問題文から正しい答えを導き出すための加減乗除を使った立式ができている。ベーシックドリルを活用し、既習事項を繰り返し取り組んでいる成果であると考えられる。	角度の正確な測り方や四角形の特徴が定着していないことが正答率から分かる。知識・技能を丁寧に教える必要がある。
	四角形の辺や対角線についての特徴が分かること。	35		
	小数×小数の計算で、小数点の位置を決めること。	36.7		
理科	回路のつながり方を変えたときの、モーターの動きや速さを考えること。	20	科学的な思考・表現はある程度定着している。これは、実験においてグループで話し合い、多様な考えから仮説が生まれたことで、意欲をもって実験に取り組むことができたからだと考えられる。	電気の問題の正答率が総じて低い。実験を通して、電気の性質や回路のつながり方の変化によるモーターの様子について体験的に理解させることが必要である。また、実験器具の取り扱い方を丁寧に指導することも必要である。
	電気を通すものと通さない物が分かること。	23.3		
	実験器具の取り扱い方や、安全に実験するための方法が分かること。	26.7		